

2011. 12. 26.

ご支援下さったみな様へ

お父さんたちのネットワーク
石垣政裕

支援のご報告23

－吹雪の陸前高田でトラック市に参加したこと－

福岡の濱砂おやじからの誘いで、石垣夫婦と照井さんが陸前高田で開かれる軽トラック市に参加することになりました。

朝、ハンドボールの練習を少し早めに引き上げて、一路、陸前高田に向かう。もう通い慣れた一関街道なので、一関で高速を下り、ひたすら気仙沼に向かうだけです。

私たちは前日から仙台にある卵とプリン専門店、家兄園から特別提供された生卵200パックを積んでいました。チャリティーということで選別無しの玉子を詰めてもらって通常の半額にさせていただきました。それと、おやじプリンを100個。おいしいプリンを作り続けている家兄園のレギュラープリンにおやじシールを貼っただけのしる物ですが、「いかにもわけあり」の様相を呈しているプリンをワゴン車に積んでいるわけです。

気仙沼に入る間際で事故があつたらしく、少し渋滞しました。私たちは目の前の軽トラックに注目した。『あの軽トラックは陸前高田の軽トラック市にいくだろう』岩手ナンバーの軽トラックというほかに何の根拠もないのですが、そう決め込んであとをついていくことにしました。軽トラックは確かに気仙沼の街道を北に向かった。ううむ、これは「あたり！」かもしれない。陸前高田に入ると町がすっかりやられているためどこでどう曲がったらいいものやら全くわかりません。それほど酷い被災の仕方なのです。私たちは決め込んだ軽トラックのあとをついていくと、『つけられている・・・』と感じたか、知っているかのように川の手前の左岸をスピードをぐんぐんスピードを上げて走っていきます。

・・・む？どう考えても方向が違います。会場となるドライビングスクールは、地図で行くと対岸の高台にあるはずですが。これはやっぱり『図られた！』と・・・。「図られたも」なにも勝手にくっついてきただけですのに。

高台のドライビングスクールに行くと、濱砂おやじがいて、挨拶をしました。遠い福岡からよくぞやってきた・・・と熊本や宮崎からの参加もあるらしい。どうやってここまでやってきたのでしょうか？ドライビングスクールとの関係もよくわかりま

せん。濱砂さんのはなしから、本ドライビングスクールの社長が、じつにこのような支援活動を受け入れ、地域を何とかしようと積極的・行動的だということは理解できました。午後からスクールの教習はなく、教習場に軽トラックマーケットができました。

ドライビングスクールの待合室(?)ではフリーマーケットが開かれていたので、少し寒くなりそうだったので、私もダウンを安く買いました。そのそばで、きぐるみを着た人がバイオリンを弾いています。とても不思議な光景です。

陸前高田市は津波により壊滅的な被害を受け、死者・行方不明者は1765人にものぼります。この高台の地域だけは被害を免れたようです。瓦礫がすっかり片付けられた他の地域と比べると片づけも進んでいないようです。復興のシンボルといわれた一本松はずいぶん有名になりました。みんなこの町を訪れると、見に行ったという話を聞くのですが、私たちはそれよりも少しでも地域の人びとと接したいとの思いが強くなっていました。

この軽トラック市は経産省のプロジェクト(ソーシャルビジネスノウハウ移転・支援事業)で、宮崎県河南町ですでに定期市として開催されている「トロントロン軽トラック市」を被災地で開き、賑わいを取り戻そうという企画なのだそうです。

私たちは割与えられた場所へ車を移動し、タープを広げて店を出すはずだったが、意外に風が強く、ビニールロープで車に結んでも飛ばされそうです。照井さんのタープなど組み立てる前から吹き飛ばされ、壊れてしまいました。この辺りから練習コースはほぼ「吹雪」状態を呈してきました。「吹雪」状態はちゃんとした吹雪です。どうも『冷温停止状態』などという摩訶不思議な言葉がでてきてからはずいぶん日本語に注意しなければいけないなあと思うようになりました。世界中から日本語は全くいい加減な言葉だと、日本語が貶められることがないようにしなければと思っています。核反応を続けている燃料棒がいかにも冷凍庫の中のアイスキャンディのように静かに横たわっているような言葉を使っては・・・まるで、何ごとも何にもなかったように。事象をしっかり記述する科学者や、言葉をつたえることを商売にしているマスコミがしっかりとした言葉を使ってくれることを期待していま



練習コースに簡単に店ができていく



店開き

す。一触即発状態の夫婦関係を『冷温停止状態』と呼んだりしてはいけません。

ともあれ、そんな天候では客足が心配されましたが、私たちの心配をよそに九州や岩手などから駆けつけた軽トラック市のエリアがどんどんできあがっていきます。

私たちは、この日のためにイラストをあしらえて用意した「お父さんたちのネットワーク」の幟旗も取り付け、とりあえず一つのタープの中にセットした二つの店で売り方を開始しました。

用意した文房具はほとんど売れなかったなので、照井さんは卵の販売の方に回ってくださいました。ううむ。さすがに、

商売人。売りの手際がいい。隙あらば他の店に買い物に行ってしまう石垣とは商売に対する姿勢が違います。この照井さんの活躍で、立ち寄ってくださるお客さんへの卵の供給がなんとか間に合いました。100円という安い価格だったためか、卵は売れ行きがいい。おやじプリンもそんなに悪くない「仮設のまとめ役をやっている。せっかく来てくれたんだから、みんなのぶんも買っていきたい」と10パックほども買って下さった方もいらっしやっただ。

私たちはほぼ8割方売り終えて、少し早めに店じまいをしました。雪の状態がとても心配になってきました。しかし、被災地の方が喜んで下さったこの生卵販売の経験がつぎからの活動につながることになりました。

後日談：この陸前高田から、同じ岩手県ということで、雫石に宿を取ったのですが、宮守を過ぎたところで道を間違え、山越えの国道で盛岡へ向かってしまいました。それだけでなく、雫石では方向を失って、降りしきる雪の中で泊まるはずだった宿が見つからず、遭難しそうになったというおまけまでついてしまいました。



宮崎からも来とるとです